

令和6年度第3回西淀川区区政会議

1 開催日時：令和6年11月19日（火）午後6時30分～午後8時8分

2 開催場所：西淀川区役所5階 会議室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50音順）

麻井、伊関、今前田、大垣、大西、岡崎、倉方、竹内、多田、田中、西垣、樋口、
平井、平林、藤江、森田、矢口、吉見

（事務局：西淀川区役所）

松田区長、楯川副区長、奥本総務課長、西尾政策共創課長、近藤地域支援課長、
木村安全まちづくり担当課長、松本窓口サービス課長、篠原保健福祉課長、山城
生活支援担当課長、横内こども福祉担当課長、足立保健主幹

（市会議員）

佐々木哲夫市会議員

4 議題

- （1）「西淀川区将来ビジョン（案）」について
- （2）グループ討議「地域コミュニティの活性化策」について
- （3）その他

5 議事内容

○大垣議長

こんばんは。急に寒くなりましたね。そうしたら、ただいまから令和6年度第3回区政会議を開かせていただきます。

それでは、事務局から本日の議事進行について説明してください。よろしくお願ひします。

○西尾課長

皆さん、こんばんは。本日の会議は現時点で17名の参加であり、定員27名の過半数を超えていることから、会議が成立していることを確認いたしております。

次に議事進行について、次第を見ていただけますでしょうか。

議題は、(1)「西淀川区将来ビジョン(案)」について、(2)グループ討議「地域コミュニティの活性化策」について、(3)その他となっております。

続いて、配付資料の確認をさせていただきます。

まず1枚目が次第でございます。続きまして、ホッチキス止めの2枚で配席表と名簿でございます。資料1-1としまして「西淀川区将来ビジョン2025(案)」でございます。資料1-2としまして統計データですね。これがホッチキス止めでございます。そして資料2、1枚もので「区政会議のグループ討議について」でございます。最後に資料3としまして「地域コミュニティの活性化策に関するワーク」でございます。資料がない方がございましたら、挙手等をいただきましたらお持ちさせていただきますので、よろしく願いいたします。

なお、区政会議の実施状況についてはホームページや広報紙などで報告いたします。様子がより伝わるように写真を掲載いたしますので、会議中写真を撮らせていただきます。また、会議の様子を西淀川区役所YouTubeでライブ配信しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます、議長お願いいたします。

○大垣議長

それでは、議事に先立ちまして、区長からご挨拶をお願いいたします。

○松田区長

皆様、こんばんは。今日もお忙しい中、お疲れの中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。冒頭議長からもお話しがあったように、急に寒くなりました。私もちょっと何か背中がゾクゾクして大丈夫かなとか思っているんですけども、それもそのはずで、暦で言うと今週は小雪と言って小雪が舞うという季節だということ

とで、ようやく本来の軌道に乗ったのかなというふうに前向きに捉えております。

話がちょっと本題からそれるんですけども、昨日警察から連絡がありまして、西淀川区の特殊詐欺被害が27件、7,700万円に及んでしまったと。これは昨年と比べるとプラス12件、それから金額で言うとプラス5,600万円ということで最悪のペースであるということでした。私も含めてまずは皆様、それから身内の皆様お知り合いの皆様、被害に遭わないように今一度注意喚起をお願いできたらと思います。また、区役所としてもいろいろなことを改めてまた検討していかないといけないなど考えております。ちなみに隣の淀川区、それから大阪府全体としてもマイナス傾向だそうで、伸びているのは西淀川だけということでした。

本題ですけども、早いものでこの区政会議も3回目ということで、大分骨格が固まってきたのかなと思います。今日も前向きな熱い議論を期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

○大垣議長

はい、ありがとうございました。

それでは、議題に進んで行きたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

○西尾課長

それでは、事務局より説明させていただきます。

まず資料1-1「西淀川区将来ビジョン2025（案）」について説明させていただきます。この案につきましては、これまでも前回に示させていただいてご議論いただいた内容でございます。前回の区政会議においてご議論いただいた内容やこれまでの議論をもとに、前回から若干変更させていただいています。

まず開けていただいて5ページですが、西淀川区がめざす将来像ということで、「活気があり、笑顔にあふれ、常に進化するまち」。これについては変えていないんですけど、副題ですね。「高い防災力を備え、さまざまな文化でにぎわう西淀川」ということで、やはり皆さんの関心が高い防災や、最近外国人の方が増えているという

ことで多文化の共生ですね。そういった現状などからさまざまな文化でにぎわう西淀川を追記させていただきました。

続きまして6ページでございます。未来に向けた「5つの柱」と「基本方針」ということで、前回は別のページで表現させていただいていたんですけれども、分かりやすいようにコンパクトにしまして、「5つの柱」を実施するために、官民共創の推進やSDGs達成の推進を基本方針として取り組んでいくということで1枚にまとめさせていただきました。

続きまして7ページでございます。「施策と主な取組①地域コミュニティの活性化」ということで、前回の区政会議では防災とか地域の見守りの課題などが挙がり、どうしても地域コミュニティが一番大事だということが話に上がってまいりました。その中で施策のところポツの4つ目を加えさせていただきました。「単身世帯及び外国人への地域コミュニティ参加促進」ということで、やはりそこを考えながら施策を進めていこうということで、その部分を追記させていただきました。

続きまして9ページでございます。「施策と主な取組②健康で安心・安全な地域づくり」ということで、これは当初健康編を1番目に持ってきていたんですけれども、皆さんの防災への関心が高いということで、内容は変わっていないんですけれども防災を1番目に持ってこさせていただいたところがございます。これが主な変更点でございます。

説明については以上でございます。

○大垣議長

はい、ありがとうございます。ただいまの説明について、ご意見がございましたら、質問をよろしくお願いたします。発言の際は、お名前をおっしゃってからお願いいたします。

ないようですので、それでは事務局から次の議題の説明をよろしくお願いたします。

○西尾課長

次の議題に行く前に、将来ビジョンの今後の流れを説明させていただきます。

西淀川区将来ビジョンの今後の流れですが、12月6日から1月7日の期間において、将来ビジョン（案）を大阪市のホームページなどで公開させていただきまして、寄せられた意見を参考にしながら最終版の将来ビジョンを作成してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次の議題に進めさせていただきたいと思います。資料2「令和6年度第3回西淀川区区政会議グループ討議について」でございます。

今回のテーマは「地域コミュニティの活性化策について」でございます。これも先ほど説明させていただきましたが、前回のグループ討議において、どうしてもやっぱり地域コミュニティが大事だというお声をいただいたところでございます。そうしたこともあって今回はこのようなテーマを設定させていただきました。進め方にもありますように、特により多くの若者や外国人が地域コミュニティに参加するようになる具体的な方策について、資料「地域コミュニティの活性化策に関するワーク」に沿って①→②→③の順に検討いただく形で、特に若者や外国人の方が地域に溶け込むためにはどうしたらいいか議論いただきたいと思います。

まずは各自で検討いただいて、その後グループ内でファシリテーターを1人決め、発表・意見交換してください。資料3でまず皆さんご自身でワークに取り組んでいただいて、こちらに記入もしくは付箋に記入して考えていただきたいと思います。資料2に戻りまして、その後に皆さんで順番に発表していただき、そしてグループの意見を取りまとめた最後グループ討議の発表まで行っていただきたいと思います。前回からもグループ討議させていただいていますのでこれは不要かもしれませんが、留意点の1番下ですね。「多角的な意見で検討するため、自由な発想で意見をお聞かせください」ということで、他人の意見に対して批判や否定などを控えて、皆さん温かい目で議論いただいたらいいかなと思います。そして、多くの意見をいただけるように発言は端的に短くお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それではただいまからグループ討議に入って行きたいと思いますので、まず区役所の職員はテーブルへの移動をお願いいたします。資料3「地域コミュニティの活性化策に関するワーク」で、まず個人でアイデアを記入いただきたいと思います。約8分の検討時間がございますので、お考えいただきますようによろしくをお願いいたします。

(意見交換)

○西尾課長

そろそろお時間となりましたが、皆さん発表の準備はできましたでしょうか。取りまとめた意見を各テーブル、3分程度で収めていただけたらありがたいと思います。

それでは、1番目で発表するよというところがありましてお手を挙げていただけますでしょうか。

それでは藤江さんどうぞ。

○藤江委員

若者と外国人が参加することということで、若い人に聞かないと分からないなというのがもちろんありまして、そもそも僕とかおっさんが考えてもよく分からないのでまずは「聞く」というのがいるだろうと。グループに20代がいたのでその人からは、イベントや祭りを一緒に考えたり、「この場所の活用方法とかを考えませんか」と言われたら何かやってみたいかなという意見がありました。

「実は出来島が盛り上がっている」とお祭りに行った人が言っていて、外国人や若い人もいろいろ参加しているからいいよなど。それは何かリーダーシップとか商店街の人がいるとか地活協も協力していくとか、何か楽しいことをみんなでやろうという雰囲気があると。外国の人にもともとつながりがある人に「イベントに行ってみませんか」と声をかけられる関係性があるので、何かヒントがあるのではないかという話になりました。スポーツとか音楽とかおいしいものとか日本の文化とか、そういうのをちょっとやれば関わり合いが作れるのではないかということで、1回知り合って次に何か一緒にやるというような関係性をつくりたいなということになり、とは

いえそもそも外国人のコミュニティとはどのようなものか僕らもよく分からない。隣近所という感覚があるのかどうかというところが分からないので、それは聞いてみたいなという感じです。

若者も一緒ですけど、情報発信が大事だろうと。区内でどんなことをしていて、どんな場所があって、それもしかもしかも若者が行きたくなるような情報発信なので、若者のための情報発信がいるよねとなり、学校が使えるのではないかと。学校に来られているお子さんだけじゃなくて、親御さんが若い世代なので、どんなことがあればいいかとかアイデアとか思いを聞いてみたらヒントがあるのではないかということになり、子どもの話で公園がなかなか使いづらいと。子どもが外で遊ぶにもいろいろな規制が多いので難しい。例えば火遊びをしたいと思ってもできない。外国の人もバーベキューするところがあったらうれしいという意見があるけどできないと。そう思うと公園や淀川の河川敷をもっと使えるようにならないかと。淀川の河川敷の草がボーボーであれば草刈りもしようと、草刈りをしてくれる人も募集してぜひやろうというところまで話が行き、1人で参加するのは若者・外国人は難しいので、一緒に参加する仲間がいるという状態をつくって、誘い合って来てもらうというような関係をつくってきたいなということになりました。以上です。

(拍手)

○西尾課長

ありがとうございました。それでは次の班お願いします。

○吉見委員

うちの班では外国人との交流と言いますか、仲良くなるためにはまずどうしても言葉の壁があるという話もしてたんですけども、言葉であったり文化というのはどうしても違うのは当たり前なので、言葉や文化の違いを分かる人たちというのは必ずいてと思います。例えば学校の先生であるとかそういったお店の人、先ほど言われたような外国人コミュニティを日本人とつないでおられる方とつながって、我々とつな

いでいただく、そうやって仲良くなっていけばいいのではないかなということでも話が出ました。これは若者でも一緒ですけれども、やっぱり遊びから始めるというのが一番いいのではないかなと思っていて、例えばスケボーをやる場所が今なかなかないですが、若い人はスケボー好きな方も多く、外国の方も多いです。キャンプであったり先ほどおっしゃられたようなバーベキューであったり、eスポーツ、音楽、ダンスなどには言葉の壁が正直ないと思うので、そういった楽しいことを一緒にできる共通言語みたいなものがあれば若者も外国人の方も一緒に楽しめるのではないかなと、仲良くなれるのではないかなと思っていました。そういった場所の提供もやっぱり大事ですので、例えばキャンプにしても矢倉緑地を使ったり、廃校を利用したりすることもできるのではないかなという話が出ました。そして、そうしたイベントをするにしても情報の発信がどうしても大事なので、SNSやアプリ、スマホを使った情報発信が若者には響くのではないかなということで、そういったことに長けている人を捕まえて情報発信してもらおうということと、実際に若い人の意見を汲み取る場所としてこういった区政会議に参加してもらおうとか、直接関わりのある人たちから意見をいろいろ吸い上げていくというようなことが大事なのではないかなという意見が出ました。やっぱり一番は個々のつながりも大事なので、隣近所の外国の方との「こんにちは」という挨拶からではないかなという話になりました。以上です。

(拍手)

○西尾課長

ありがとうございました。それでは、次の班をお願いします。

○大西委員

私たちの班は、課題としまして外国籍の方々とはやっぱり言葉の壁が大きいなというところで、日本に住む分、生活する分には不自由ないような会話ができる方でも、イベントの参加や町会のルールの説明となったときになかなか理解しづらい。そもそも日本語の単語自体が自分の国にないので理解ができないということももちろんある

と思うんですけども、そういった言葉の壁がやっぱり大きいですよというところ
と、外国の方に向けて説明ができる人がそもそも少ない。国の言葉が分からないため
どうしてもジェスチャーや日本語の中での説明になるので、しっかり伝わりきらない
というところが問題となっています。後は若者とかお子さんがいらっしゃるような若
い世帯のところの方々が地域コミュニティに参加しづらいというところは、やっぱり
「めんどくさい」という先入観が大きいというところと、お子さんが少なくなってき
て高齢化が進んでいるというところももちろんあるんですけども、なかなか若い方
に地域コミュニティに対しての興味関心を持ってもらいにくい、情報をいくら発信し
てもなかなかその情報を受け取ってもらえていないというところもあるので、そうい
ったところを解決するためにも、興味を持ってもらえるような流れをつくっていった
ほうがいいかなという話になりました。学生や単身者向けのワンルームのマンション
も増えていますので、そういった単身世帯の方が参加しやすいフェスみたいなイベン
トがあったり、小学校・中学校・高校生の学生が参加できるような取組があったりす
れば、自然と保護者の方もそこに付き添って参加していただけるので、地域に捕まえ
やすいのではないかなと。もう1つ掘り下げてしまえば乳幼児の保護者は狙い目だと思
います。お仕事できないので結構暇しているので、そういった方々を若いうちから
捕まえておくと、だんだん地域に入っていただけるようになるのではないかなと思
います。外国籍の方に向けては、ある程度国を限定してにはなるんですけども、地域
の方も外国語をまず学んでみて、その方々の国の言葉でちょっと会話をできるよう
なってみるのもいいのではないかなという話も出ました。後は盆踊りとか音楽ですね、
国や言葉が関係ないようなイベントというところで、盛り上げていって参加を促す、
参加してもらいやすくするという案が出ています。後は、中学校下でサポート体制を
強化していただけると、より一層外国籍の方のお子さんから保護者の方に伝わりやす
いかなとなっています。この辺りの課題ですとか、案をまとめて解決するために区
民まつりへの参加を増やして行こうじゃないかという話になりまして、ちょっと小酒

落たフェスみたいな感じで区民まつりを変えていきたいなど、地域に関係なく参加してもらうために緑陰道路全体を使ってしまえばいいんじゃないかという話になりました。緑陰道路をつかって区民まつりをフェスにしてしまうという話になりました。ただ、課題として横に長いので移動がすごく大変ということで、こういったところで企業に参加してもらって人力車で区間ごとに移動してもらえれば、無理なく移動ができるんじゃないかなということで、新しい区民まつりの開催方法について話していったような形になります。以上です。

(拍手)

○西尾課長

ありがとうございました。

それでは最後のチーム、よろしく願いいたします。

○多田委員

うちのチームではまず、「若者はそもそもコミュニティに参加したがるのか」という課題が出てきました。そもそも知らないんですよね。町会がどうなのとか地活がどうなのとかというところが全然知らないし、その入り口も知らない所以对してそもそも参加するという意思すら持っていない可能性も高いですよね。外国の方については、我々日本人がやっぱり怖がっているところはあるんじゃないんですかっていうところですね。「夜にコンビニでたむろしている」とか「ちょっと荒い運転している」とかそういうところで「ちょっと怖いな」「話しかけにくいな」みたいな、こちらも1歩引いてしまっているところもあるのかなということが課題で上がりました。

それをどう解決していくのかというところですよ、大きく分けて2つの柱が出てきたかなと思います。まずは教育というところで、小学校とコラボするという話が他の班でも出てきたことだと思いますけれども、社会の時間でこの国の歴史とか支える基盤の選挙の仕組みとか、世の中の仕組みとか学ぶわけですから、そこに地域

がどうやって動いているのかなというところがいまいちあまり触れられていないのかなというところは思っています。ですので、「この地域、この人が中心になってこんな感じで動かしているんですよ」みたいなところを実際に子どもたちに見てもらえる場ができれば、「あのおっちゃんよく見るけどどういう人やったんやろ」とかではなくて、ちゃんと中身まで知って卒業してくれたら、将来また帰ってきやすいんじゃないかなということは出てきたところです。教育という大きな柱ともう1つは情報の発信の仕方ですよね。情報源を抑えるということが大事なのかなと。例えば、外国人の方は自分の国ごとに集まってコミュニティをつくりがちというところで、西淀川に限った話じゃないんですけど、例えばその国の料理が食べられる料理店に2、30人が集まってコミュニティが形成されているとか、別にそれはその国の方に限ったものじゃないと思うんですよね。例えば、「あそこのおばあちゃんは日本人だけどいろいろ優しいし教えてくれるから、その人からいつも聞いている」とか、そういうキーマンになる人が恐らくそういう外国人が多く住んでいる地域にはいるであろうと。そういうところをしっかりと抑えて、例えば料理店にそういった情報を貼ってもらうとか、そういう中心になっているおせっかい焼いてくれているような人に情報を発信してもらうということをしたら、今はいろいろ多角的に発信しているけど、いろいろな紙も配っているけどみんな見ないよね、ちょっとボタンの掛け違いが起きているかもしれないよねということは議論に上がりました。やっぱりきっかけが必要だと、例えば「外国人が怖いなと思っていたけど、挨拶したら向こうも挨拶を返してくれるようになってそこからよく話せるようになった」とか「あまり日本語を話せないけど何とかなくジェスチャーで何とかなっています」みたいなのも結構あるので、そのきっかけはうちの班で2つ出てきたかなと思います。食と防災。さっきも料理店の話も出てきましたけれども、「やっぱり食べ物って万国共通で、おいしい食べ物を食べたらみんな仲良くなるよね」というのも出ましたし、この前西淀川区の一斉防災訓練がありましたが、そこで例えば隣のワンルームマンションとか外国人の人が住んでいるようなお

家とか、どういうところでつながっていけるのかなとなると「災害時にここが避難所になっているから、ここに逃げてくださいねとか言うと言いやすいよね」みたいな。

「他のことを言うよりも、みんな何となく危機意識持っているところでつながっていくと入りやすいのかな」「コミュニティの入口は防犯・防災がやっぱり有力なのかしらね」というようなことにうちの班はなりました。以上です。

(拍手)

○西尾課長

ありがとうございました。

発表は以上でございますので、それでは次は全体で意見交換を行いたいと思いますので、議長と副議長は席にお戻りいただいてよろしいでしょうか。課長級の方も一旦席にお戻りいただけますでしょうか。そしてここで、全体で意見交換を行いたいと思いますのでしばらくお待ちください。

(意見交換)

○議長

はい、ありがとうございます。

それでは進めさせていただきます。他のグループの発表も含めて、より多くの若者や外国人が地域コミュニティに参加する具体的な方法についてご意見がありましたら、具体的に提案のある方は挙手でお願いします。

○伊関委員

にしよどにこネットの伊関です。今日は外国の方のお話だったので要望というか希望ですけれども、予算の出所が違うのかもしれないですけれども、当初西淀川はブラジルの方がとても多くて、西淀川図書館にはポルトガル語の絵本と、あと英語の絵本があるのかなと思っています。中央図書館などにはネパール語の絵本だったり、ベトナム語の絵本だったり、たくさん多言語の絵本があるので、西淀川にもたくさんの言語の方が住んでおられるので、できたら英語とポルトガル語以外の言語の絵本か、書

籍が増えたらいいなと思っております。

○議長

はい、ありがとうございます。それでは副議長はご意見どうでしょうか。

○矢口副議長

地域コミュニティの話を皆さんとさせていただきました。地域コミュニティは大切なものと思いながら、なかなか日々忙しくて行動にならない。そういったところですけども、素晴らしい意見が、本当に話していて楽しいなと思うような意見が今たくさん出てきました。壁を乗り越える工夫、共通言語としての遊びの活用とかスポーツの活用とかそういったものを、皆さんアイデアを行動に移せる方だと思います。ぜひここでのアイデアを次の1歩へ進めるようにできたらいいなとお話の中で感じました。

○議長

はい、ありがとうございます。

私からもあるんですけど、議長は高齢ですのでなかなか積極的に前へ行けない性格でね。日本人の性格かな。もう島国根性とかちょっと抵抗がある感じを受けてしまうんですけど、今も意見を聞いていましたら、若い人たちの方が積極的に前へ進めて行ってもらえるというようなことで、その場所的な提供はさせていただきながら仲良くやっていくというような形を取ればいいかなと思っております。以上です。

それでは、ご出席いただいております区選出の議員の先生方からご意見をいただきたいと思いますが、佐々木先生からよろしく申し上げます。

○佐々木議員

失礼します、こんばんは。今日は選出議員が私だけですけれども、普段私この外国人の方のご相談をいただく内容が2つあるんですね。まず1つは、苦情ですわ。もう何とかしてくれという、「空き家ができれば外国人が入って来て、何とかならないのか」と言って、いやいやそれは何とかありませんわという話なんですけれども、そういう1つは苦情です。あともう1つは、逆に外国人の親御さんのお友達の日本人の方

からご相談いただいて、それはほとんど生活の話です。あとはお子さんがやっぱり言葉とかで学校でもうまく馴染めなくて不登校になっている。でも不登校になっても国に帰ると言ってもそんなお金がないという話だったり、あとは生活苦の話であったり、全く正反対の立場のいろいろなご相談をいただくことがあるんですけど、今日は各テーブルで聞かせていただいて、皆さん地域で何かしようという思いでいらっしゃる方ばかりだからだと思えるんですけども、ものすごく前向きにここで話しいただいて、それを実現していただいたら今言った2つの課題ももうちょっと前に進んで行って、それが地域のプラスになっていくんだろうなと思いました。あとは、「いろいろな相談を区役所に行くといってもどこに行ったらいいか分からない」とか「言語の問題がないするねん」って、これは議会でもタブレットを使って、タブレットを介してお話ができるような仕組みもつくったりしているんですけど、でも本当に困っている人はそこまで行かないという、これは日本人でも同じですけどね。そんなことも地域でコミュニケーションを取っていただく中で、前向きな方向に絶対進んで行くなと感じました。ものすごく私も今日の話は参考になりました。やっぱりイベントではないかっていうそんなので区民まつりをフェスですか、緑陰道路はいいじゃないですか。また、若い世代であれば学校とかを使ったらもっと来れるんじゃないかなとか、すごく私も目を開くようなヒントをいただきました。食と防災というお話もありましたよね、若い方についても外国人の方についてもアプローチの仕方って今聞いていたら共通しているような気がします。だからこの辺にすごいヒントがあるなというのは感じたので、今日のお話を参考にしながら1つでも実現できるように区役所よろしくお願いします。

また、「地域でもこれをしたら上手くいった」というのがあったら、ここでどんどん出してもらったらいいなと思います。ちょっと違う話で群馬県の大泉町というところがあります。ここは有名な外国人が多いところで、ブラジル系が多いんですけども人口の5分の1が外国人、これはもう30年前からそうなんです。大半はもう出稼ぎの人だったんですけど、でももう今は出稼ぎという言葉は死語になっていて。そこ

に住んで一緒のコミュニティでいろいろな課題が出てきていて、今言っていたような話はもう30年前からしていて、ショッピングセンターにこのぐらいの広さのスペースをつくって、外国人の人が集まれるコミュニティが集まれるフリースペースをつくったというのが、1つの解決になったというふうな話を聞いたことがあります。今はだんだん外国人の国が増えていってそれぞれコミュニティがあるので、このコミュニティは混ざらないらしいんですわ。だからそれぞれの国でコミュニティをつくって、それがここでじゃあみんな一緒にとというのは全然ならないみたいで、最初はブラジル人ばかりだから上手くいったけど、ちょっとまた違う段階に来ているというお話もありました。いずれにしても今後外国人の労働者のこともあります。間違いなく増えてきて、その外国人の方をどううまく地域の人材としていくかというのは、日本全体の大きな課題でもあると思うのでまた私もしっかりと勉強をして、1つでも前に進めるように頑張っていきたいと思います。若者の方の話も同じです、もう本当に大事なところだと思いますので、しっかり勉強させていただきます。今日はどうもありがとうございました。

(拍手)

○議長

はい、ありがとうございました。続きまして、今回副区長のほうから本日の会議についてよろしくをお願いします。

○楯川副区長

はい、ありがとうございます。皆さん遅くまでお疲れのところご議論いただきまして、意見発表等ありがとうございました。私も遡ること15年前ですね、外国人として外国に何年か住んだことがあります。さらに遡ること15年前は若者でした。10年ひと昔前と言いますので、その当時と今はいろいろな生活環境が変わっていますので特に若者時代のことにはもう語っても意味がないと思うんですけども、外国に住んでみると、やっぱり日本人って日本人だけのコミュニティがつくられているんですね。そこ

に新しく入って行くと、日本人同士はいろいろ集まるんですけども現地の人との交流はあまりないんです。現地の人との交流のきっかけになったのはさっきも話に出きましたけど、日本人コミュニティとつながっているその国の人を介していろいろ広がりが出て行くというようなところがありました。外国人の方はここでこうやって皆さん一生懸命議論していただいていることも全く知らないと思いますので、そういったところも含めて言葉が分かる日本人の方、外国人の方でも日本語が分かる外国人の方でもいいですけども、そういった方をきっかけにと思います。当時の生活を思い出しますと先ほどの意見にもありましたけれども、日本人がよく行くレストランにはいろいろな日本人向けの貼り紙が日本語でしてあって、それをきっかけにいろいろなつながりやいろいろなところに参加するというのもあったと思います。当時ネット環境も今ほどなかったのも、そういう意味でもよく行くレストランといったところに貼り紙するというアナログなやり方だったということですが、現在でも有効なのかなというふうに思って聞かせていただきました。最初いろいろ言葉が分からないとか文化が違うとかどうやって接したらいいか分からないというのはきっとあると思うんですけども、情報発信も大事ですけども、まずはきっかけづくりというのが1番大事なのかなと思います。若者に関しては、私以前の職場でちょっとヤンチャな若者に役割を与えて、より小さい子どもを世話してもらおうということをやってもらって、それまでそういうヤンチャな子ってあまりみんなからありがとうと言ってもらったりとか、成功体験のようなものがあまりなくて、役割があれば「みんなに必要とされているんだ」という思いが芽生えて、すごく感謝されて自分も感謝して継続的に参加してもらえんというようなこともありました。これほどの世代でも一緒だと思うんですけども、何か役割があつて誰かに感謝されることがそういうところに参加して継続していくモチベーションになるのかなと思っています。何か場をしつらえて参加してもらおうという考え方よりも、何か今までやっているイベントで「あなたはこれをやってください、ここの役割ですよ」と切り取って与えて、それについてみんなで感謝し合うというの

がいいのかなと、ちょっと漠然とした表現ですけれども、そんなふうに感じています。
総括については以上です。

(拍手)

○議長

はい、ありがとうございました。その他のこと事務局から案内よろしくお願ひします。

○西尾課長

それでは次第の下のほうにも書かせていただいておりますが、次回の区政会議は1月30日木曜日18時30分から予定しております。次回の区政会議では令和7年度の運営方針（案）及び令和7年度の予算（案）などの説明をさせていただく予定ですので、よろしくお願ひいたします。なお、令和7年度運営方針（案）については、次の区政会議でいただいたご意見を考慮した上で2月中旬に公表する予定でございます。以上でございます。

○議長

はい、ありがとうございます。

それでは最後に副議長のほうから感想をお願ひいたします。

○矢口副議長

ありがとうございます。本日のテーマは非常に考えやすく、何かお話も広がった感じがあります。地域にも力を入れて広げていきたいアイデアが本当にたくさんありました。私も地域に持ち帰って実行に移したいと思ひます。そのフィードバックももしできましたら、こちらでさせていただきたいと思ひます。皆様も今のお話の中でピンとくるものがたくさんあったと思うんです。地域でまた進めたり、身近なところで進めたりして何か少し良かったということがあれば、ぜひまたこちらの場でお話いただきたいと思ひます。本日はありがとうございます。

○議長

はい、ありがとうございました。

それでは今日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

(拍手)